

令和元年度長崎県普及指導活動外部評価会議結果報告書

項目	内容等
趣 旨	本県の農業者や地域のニーズを的確に捉え、より効果的・効率的な普及活動を展開するため、幅広い視点から普及指導活動を客観的に評価し、得られた評価結果をその活動に反映・改善していくことを目的に実施した。
評価方法	評価の項目は次のとおり。 ア 普及指導活動の体制(組織体制、普及指導員の資質向上の取組等) イ 普及指導活動の実施状況(課題設定の背景・目的、普及指導活動の内容、成果等) なお、普及指導活動の実施状況の外部評価は、毎年度、2振興局を対象とし、令和元年度は県央振興局と五島振興局を対象とした。
実施時期	令和元年 7 月 30 日(火) 13:30~16:30
実施場所	農協会館 702.703 会議室
外部評価委員	7名(先進的な農業者、若手農業者、女性農業者、農業関係団体、学識経験者、マスコミ、民間企業)

評価結果

1. 普及指導活動の体制

- ・普及指導員の方は農家とよく話し合っている。
- ・可能な限り評価には費用対効果(B/C)の指標が必要。指標があつて初めて第三者に客観的に伝わる。長崎県の農業の課題のひとつは、農業所得の向上。農家の農業所得にどの程度寄与したのか、定量的な指標を出すこと。
- ・普及指導活動の成果について、県民向け、消費者向けのPRをさらに積極的にしていくことを検討すること。

2. 普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	評価した点	普及活動に対する提案	普及指導活動への反映状況
県央振興局	防護・捕獲対策 実践による鳥獣 害の防止	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との合意形成を丁寧に行い、課題を適切に洗い出し、現状を見える化して取り組んでいる。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への説明に動画やマニュアルを活用するなど、分かりやすい工夫がされている。 ・技術の伝承、新技術の導入に力を入れ、一過性の取り組みにしないという姿勢がある。 ・地域の合意形成から成果まで、一つの流れとして関係機関の連携が図られ、現場が一体となった活動がなされている。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捕獲隊および捕獲頭数の増加。成果が数字で現れている。 	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年問題となっている中型動物による被害に対する取組を行うこと。 ・処分費用の確保のためにも捕獲後のジビエ活用を検討すること。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続した活動を行うため、労力軽減等による高齢化への対応、若手人材の確保、コスト削減などを検討すること。 ・参加者が地域のための捕獲活動であるという実感を得るための仕組みをつくること。 ・普及のプロセス、実態等は数値化により具体化すること。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル等を活用し、本成果を他地域へ普及すること。 ・成果をHPに公開すると他地域の参考になり、県民にも理解が得られるので検討すること。 	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害情報のあった場所には、無人撮影カメラを設置して加害動物を特定し、猟友会と連携して中型動物用の箱わなにより捕獲に努めています。また、自治会、生産部会へチラシを配布し、生態や対策の情報の周知に取り組んでいます。今後も全国の先進事例や対策の情報収集と活用に市町と一緒に取り組んでまいります。 ・他県の事例等を参考にして、管内にあったジビエ活用を検討してまいります。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業者の高齢化が進む中で活動の継続のために、個々の取り組みから自治会や若手を含めたJA部会が主となった地域活動への展開を促しています。また、今後は電気止め刺し技術の普及や資材の耐久性の向上など、労力軽減やコスト低減に関する情報収集と活用にも努めてまいります。 ・地域活動の状況報告は、局で「〇〇集落だより」として編集し、関係する自治会や生産部会に広く配布しています。紙面には活動に参加した人の顔ぶれや行った内容などを掲載し、地域への貢献が実感できるように努めています。このような取組の結果、集落点検や捕獲隊の結成など、自ら地域で対策に取り組むように集落の意識も変わってきています。 ・鳥獣害対策は、防護、棲み分け、捕獲の3対策を地域がまとまって取り組むことが重要であり、普及活動においては実態を数値化して示しながら地元自治体、生産部会、関係機関等と連携して進めているところです。ご意見を踏まえて、今後もより具体的な説明に努めてまいります。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したマニュアルや取組成果は、現在すでに県央振興局管内の各市町等と情報共有すると共に、生産部会や取組集団への研修会で周知しているところです。さらに局広報誌やHPへの掲載等、市町等とも連携して、情報発信と併せ成果の普及に努めてまいります。

評価結果

2. 普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	評価した点	普及活動に対する提案	普及指導活動への反映状況
県央振興局	全国茶品評会への取組による「そのぎ茶」産地の振興	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国品評会の長崎開催にあわせて具体的な目標(日本一)を設定し、意欲の高い農家を選抜して結果を出すことにこだわった。低迷している茶業の担い手に対し、協調体制の中で取り組みを進めた。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県、町、JAの関係機関の連携が良く取れていた。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期目標を達成し、さらに取り組みを継続したことにより着実な成果をあげ、かつ波及効果も生じている。 	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲の高い3割の支援対象から、生産者全体が取り組めるところにも課題を設けること。指導の対象者を広げることによる、茶農家全体のレベルアップを期待する。 ・労力不足による離農が懸念されるため、技術支援のほか、労力支援や作業の効率化への支援を行うこと。 ・加工部門との連携(てん茶など)の推進、輸出への具体的な取組について、採算性の検討を含めた支援が必要。 ・茶農家の所得向上に向けた活動を行うこと。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成功例を点として、線から面、面から立体へと変えていく若手リーダーを養成すること。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そのぎ茶」ブランドのさらなるPRにより、若手農家のやる気を高め、売込先を県・町がバックアップすること。今後のマーケティングも含めて定着が課題である。他の産地との差別化が図られると良い。 	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、全国茶品評会の取組により培った技術をもとに、一般茶の品質向上に向け、若い後継者を中心に、JA茶業部会全体を対象とした栽培・製造の各種研修会を実施し、産地全体の技術レベルの向上を図ります。 ・中核農家の規模拡大を支援しつつ、補助事業による乗用型管理機等の導入を支援し、省力化を図ります。5年後、10年後にはさらなる規模拡大が想定されますので、県が行う特定技能実習生の活用も検討しています。 ・てん茶生産を行う生産組織の輸出に向けたGAPや6次化等の取組について、採算性の検討も含めて支援するとともに、海外商談会への参加支援等を積極的に行ってまいります。 ・県内を中心に、首都圏や海外でのPR活動を強化し、「そのぎ茶」ブランドの発展を図り、販路拡大し、生産者の所得向上につなげます。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA茶業部会の若い後継者を中心とした支援を継続するとともに、若手生産者で構成されている新規茶種てん茶の生産組織や、そのぎ茶のPR事業を行う任意組織の取組を支援し、成功例を作ることで、若手リーダーを養成します。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東彼杵町やJA茶業部会、地域の団体等と連携し、県内外や海外でのPR活動を更に支援する。また、JAグループや茶商とも連携し、首都圏での商談会への出展等により販路拡大を進めていきます。

評価結果

2. 普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	評価した点	普及活動に対する提案	普及指導活動への反映状況
五島振興局	加工農産物の産地育成と6次産業化の推進	<p>I 課題設定 ・規格外トマトの活用という明確な目標を具体的な商品開発まで展開している。着眼点と商品開発が適切。観光客の増加をチャンスと捉え、五島の新しい土産にするという着眼点がよい。</p> <p>II 活動方法 ・意見交換やアンケート調査をしっかりと行っている。消費者の評価を聞き、地域の関係者と共同開発、五島らしい味を創作している。様々な関係団体との連携ができています。</p> <p>III 活動の成果 ・規格外トマトの活用という明確な目標を具体的な商品開発まで展開している。</p>	<p>I 課題設定 ・農家の生産するトマトがあって成り立つ成果なので、生産支援も確実にやること。 ・これまでの五島・他地域での6次産業化の事例を参考に、取組を支援すること。 ・農業者の積極的関与が見えないので、担い手が主体的に関与し、今後の発展、定着、改善が図られるようにすること。</p> <p>II 活動方法 ・島外在住者にも直接販売するため、ネット販売を含め検討すること。 ・パッケージに「五島ルビー」の特徴等をわかりやすく記載し、生産者の苦労などのストーリー性を伝える等、消費者へのPR手法を検討すること。 ・商品の売上げの一部がトマト農家へ還元される仕組みづくりを検討すること(農家のモチベーションアップを図る)。 ・レトルト商品ではなく、島のレストランにも外品を卸せるよう取り組むこと。 ・価格を抑えて農家手取りが増えるよう、島内生産を実現すること。島内で製造できれば雇用も生まれる。</p> <p>III 活動の成果 ・今後の6次産業化のヒントとなる活動なので、全体で共有する仕組みづくりを考えること。 ・次世代の担い手に繋ぐために、他産業以上の所得、業としての魅力の創出等、農家と一体となった活動を推進すること。</p>	<p>I 課題設定 ・「五島ルビー」の生産支援については引き続き実施してまいります。規格外品を活用した商品開発については、6次産業化の専門家による助言を参考に、現状JAごとう主体で推進していましたが、生産者の所得向上や生産意欲の向上につなげるためにも生産者が主体的に関われる体制づくりと商品性向上や宣伝方法についてJAと協議していきたいと考えております。</p> <p>II 活動方法 ・ネット販売については、JAごとうのHPにおいて既に行われております。商品パッケージについてはこれまでも専門家の助言を受けておりますが、今後もより効果的なPR手法について検討してまいります。 「五島ルビー」の規格外品を活用し、レトルト商品および冷凍ピューレを開発したところですが、レトルト商品の島内製造については、生産コスト削減には大きな要因であるため、島内食品製造業者等とさらに幅広く連携し取り組みを進めていきたいと考えております。冷凍ピューレは島内販売先の開拓が課題となっているため、実需者の掘り起こしを行ないたいと思いますが、現在「五島ルビー」の冷凍外品(青果を洗浄し冷凍したもの)の提供をJAごとうが行なっていることから、2商品ともに業務用として島内飲食店への情報提供を行ない、「五島ルビー」の通年供給体制を確立したいと考えております。</p> <p>III 活動の成果 ・今後、更なる取組推進のため、県担当者会等の機会を活用して、本取組や他地域の取組事例について情報交換していく予定です。</p>